

### 暁天講座のご報告



七月二十五日から二十七日まで、恒例の暁天講座を開催しました。  
 今年は、作家の青木新門師、樹洩陽舎舎幹の栖雲深泥師、願隆寺住職の小早川隆紀師に御講演いただきました。  
 三日間で、約五百人のご参詣がありました。

### 京都教区准堂衆会・岡崎別院雅楽会 模擬法要研修会のご報告



九月十七日、京都教区准堂衆会、岡崎別院雅楽会の共同開催で、名古屋教区瀬尾顯證師の御指導の下、普通寺院御遠忌法要のための模擬法要が行われました。他教区の准堂衆会の方を含め三十人余の参加がありました。

### 報恩講のご案内

来る十月二十三日(土)午前十時より当院の本堂において信悟院殿御参修のもと二〇一〇年度岡崎別院報恩講を厳修いたします。

引き続き同朋大学名誉教授池田勇諦師御講師から御法話を頂戴いたします。  
 報恩講ということで竹中智秀師は「報恩」という意味を持った仏事、それはもう真宗独自の仏事です。今日まで真宗が相続されている源泉になっているのは、報恩講という仏事を持っているということではないか」と述懐されています。

先達によってこの私にまで伝承されてきた真宗独自の報恩の仏事を厳修できることを切に願っております。どうか皆様方におかれては万障お繰り合わせのうえ、なにとぞ御参勤・御参詣賜りますようお願い申し上げます。

### ご案内

#### 京都教区仏教青年会による 岡崎別院清掃奉仕と演奏会

来る十月十五日午後一時より、京都教区仏教青年会主催で、岡崎別院の報恩講に向けての清掃奉仕を行います。夕方五時から懇親会を行います。庭園にて、お食事とロックバンドのゴースト・イン・ザ・ダーク・グラウンドによる演奏が行われます。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。  
 (懇親会のみ参加費は千円になります。)

#### 京都教区山城第二組による 落語とフルートの夕べ

山城第二組公開教化事業として、十一月九日の夜七時から、Dole(ドルチェ)さんによるフルート(水野香織さん)ピアノ(大西早苗さん)デュオの演奏と、笑福亭仁智さんの落語が別院本堂にて催されます。  
 参加費は無料ですので、皆様お誘い合わせのうえ、ご参加下さいますようお願い申し上げます。



第5号  
 平成22年(2010年)10月・11月・12月号  
 発行：編集 岡崎別院 輪番 福田 大

### 宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌に念う

#### 宗祖の御生涯に学ぶ 吉水時代

宗祖は、九歳の時、慈円のもとで出家し、二十一年間比叡山で修学された。六角堂の百日参籠を通してよき人、法然上人と値遇された。その後、法然上人の吉水までお通いになった。これがいわゆる宗祖の吉水時代と呼ばれる。また、そのときに現在の岡崎別院に住まわれていたと伝えられる。

宗祖が比叡山を降りられる決意とはどのようなものなのだろうか。それは仏の教えを捨てることでも、求道から逸れることでもなく、「仏の教えとはいかなることか」「求道とはいかなることか」ということと悪戦苦闘する決意であった。それはまさに上流階級から明日をも知れない生活への大変革である。当時の市井の生活は、餓死や疫病で行き倒れる人が多い中で、まさに死を目の当りにした状況であったに違いない。つまり宗祖にとつては「死を覚悟して」の決意であった。

自らの保全の中で、また自分が可愛い、ただそれだけの生活の中で、何もかもが受動的にしか思考できない私である。その私は、この宗祖の決意の深さを感じずにはおれない。同時に、法然上人との値遇に先立って、もうすでに宗祖にはたらいっている阿弥陀の願いをも感じずにはおれない。

「己に願はなくても、己にかけられる願がある」という御言葉がある師から教えられた。その己にかけられた願とともに能動的に生きられた宗祖のご生涯を感じながら、どこまでも受動的な自己保全で生きる私自身が言い当てられる念(おも)いがしてならない。

### 分陀利華

#### さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし

##### 歎異抄第十三章

先日、現在造成中の駐車場の現場から大きな石が出てきた。庭園に運び整備に使用しようとしてリヤカーを庭園まで取りに行こうとした。その時、突然、庭園にまで見知らぬ男がバイクで入ってきた。

あまりにも突然のことだった。頭と心の整理が付けられないまま、言いようのない侮辱感が湧いてきた。いつもこの庭園に手を入れ心を配っている方々の顔が浮かんできた。

「こら！どこまでバイクで入ってんねん！おまえがここまでバイクで入ってくるのがおかしいやろ！」思わず出た怒鳴り声であった。

そのとき「しまった何故こんなことを言ってしまったのか」という情けない思いが湧いてきた。年甲斐のない自分の馬鹿さ加減に打ちひしがれていた。反面「こんなところまで(庭園にまで)バイクで入る者が悪いんだ」という、どこまでも自分を立てていく思いが交錯し、しばらくの間、坊主であることも聖典の言葉も失っている自分にさえも気づけずにいた。

情けない自分と反省しながらも、どこまでも自分を立てていく無愧慚のこの私に「そんな馬鹿なおまえのために阿弥陀のはたらきがあるんだよ。そしてそのことを『さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし』る私と言つんだよ」と宗祖から、また師から言い当てられる貴重な出来事であった。

**京都教区お待ち受け大会**

来る十月三十日午後一時より、京都教区宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌お待ち受け大会が京都コンサートホールにて催されます。

講師には同朋大学名誉教授の池田勇諦師、勤行の後には京都教区合唱団によるコンサートが行われます。

なお、チケットは事前販売のみで当日の会場での販売は無い予定です。

(ご希望の方は〇七五・七七一・二九二一の岡崎別院までお問い合わせ下さい。先着順で二百円にて頒布いたします。)

**法座のご案内**

定例法座

講師 岡崎別院輪番

毎月13日 9時半〜味読正信偈 11時〜雑炊の集い

講師 大谷大学教授 一楽 眞 師

第4回 10月25日(月) 14時〜16時

第5回 12月20日(月) 14時〜16時

宗祖親鸞聖人の御生涯に学ぶ

梅香記

駐車場造成工事と庭園整備の状況



駐車場造成地 (9月28日現在)



石垣を庭園に再利用 (8月30日)

二〇一〇年八月八日から始まった駐車場造成工事も完成間近となりました。

造成工事は、家屋(借家)の解体から始まり、樹木の伐採、残土の処分、石垣の石撤去、車出入口東側の塀の解体、歩道インターロッキングの解体の順で進み、現在は東西・北の擁壁・北側のネットフェンスの設置、車出入口東側の安全策(ガードレールの設置)、車道側のバリカーの設置、歩道のアスファルト舗装、駐車場内のアスファルト舗装と、天候にも恵まれ、無事に順調



造成工事前の空き地と借家 (8月7日)



土削作業 (8月31日)



L字型コンクリート補強 (9月2日)

に進んでいます。

今回の駐車場造成工事に伴い、残土と石は庭園整備のために再利用しています。残土はツツジやさつきの植栽と起伏のある所に使用し、石は散策道と花畑の仕切と土留めに使用します。現在最終の整備に入り、二〇一〇年十月十五日の京都教区仏教青年会主催の岡崎別院清掃奉仕までに一応の整備を終了する予定です。

遠方の方々はご本山参詣のみに、また近郊の方々はお近くにお越しの際にぜひ、当院にお寄りいただければ幸いです。皆様方の御来院を心よりお待ちしております。

別院往来

結婚式



ジョスラン様・藤本様 誓いのことば

七月十七日 新郎 シュベ・ジョスラン様 新婦 藤本 かおり 様

七月十七日 新郎 藤池 政人 様 新婦 本田 知恵子 様



藤池様・本田様 本堂にて記念撮影

七月十七日に二組の方が別院にて仏前結婚式を挙げられました。心よりお祝い申し上げます。

こここの人

「ヨーガにはまる」 西村 七兵衛氏

このところヨーガとの出会いがあり、朝五時四十分から三十分間、自宅近くの鴨川べりで実践しています。もともとは、NHK朝のラジオ体操のグループに出逢ったのがはじまりです。

ヨーガはインドの六派哲学の一つで、心の統一を意味し、修行によって解脱に到達することを教えています。

先日、ヨーガで世界的に名のあるインドのパラック・ダス先生に出逢い、本場のヨーガを直接教わりました。ほんの一時間でしたが、大変な時間でありました。そのあとほんの数分の間でも、続けられないほどでした。

ヨーガは呼吸法だということを学びました。おかげで肩凝りや腰痛がなくなり、朝のひと時が楽しく、朝食がとても美味しくいただけ、幸せな一日を過ごせる様になりました。ヨーガは「入門あつての卒業なし」と言われています。どれだけ続けられるかわかりませんが、がんばってみようと思っております。

最近、久しぶりに逢う色々な人々から、西村君元氣そうだね！歩く姿勢が良いね！とよく言われます。ヨーガのおかげでありましょうか。

(法蔵館会長 当別院監事)